

やまもり通信 vol.72

色とりどりの葉っぱに鈴虫の音。
そろそろ秋がやってくる。



【加子母の風景】かくれんぼ。落葉の上を歩くとサクサクと聞こえます。

こちら 彩都やまもりです

【住所】箕面市彩都栗生南1-17-26

＜10月・11月のギャラリー展示情報＞ 彩輝館ギャラリー

「自然豊かな岐阜の木・木工品」を展示・紹介しています。

【期間】8月18日(水)～10月19日(月)

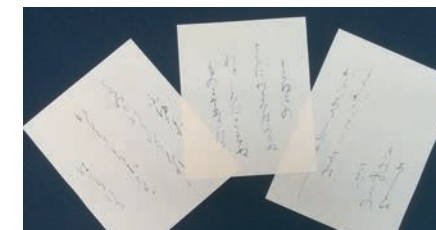
岐阜県のイチイを使った伝統工芸「一位一刀彫」をはじめ、岐阜の木を使った木柙や積み木、いすなどの木工品を展示・販売しています。



大阪樟蔭女子大学2年生書展「仮名の書」を開催します。

【期間】10月21日(水)～27日(水) ※最終日は午前中のみ

国文学科書道コース 2 年生による作品展です。2 年生の前期に「高野切第三種」(平安時代の仮名の書) を学習した後に取り組んだ作品です。色とりどりの料紙に、全体構成や墨継ぎなど各自工夫した作品をご覧ください。



岐阜市在住「東海信子 岐阜の草木染(仮)展」を開催します。

【期間】10月28日(木)～11月29日(月)

岐阜市在住の草木染織物作家として、また岐阜市のまちなか案内企画の一環で手織りと草木染体験を引受けておられる、「野布庵」の東海信子様を紹介・販売します。

天然の草木の色合いや風合いが魅力の草木染め。一位一刀彫に使われるイチイの削りかすを利用した染物や美濃和紙を草木染にするなど草木染めを通して岐阜の PR にも貢献されています。

＜ イベント案内 ＞

11/6(土)・7(日)ミニやまもり市開催！

◎かしも産直市

大人気の朴葉寿司に加え、秋限定の栗きんとんもくるかも！

◎SDGsワークショップ

「端材でコンポストづくり」
端材を使って落ち葉や生ごみを堆肥するボックスをつくらう！

詳細は彩都やまもりHPをご覧ください。
※新型コロナウイルスの影響により変更・中止となる場合がございます。

【お問合せ】彩都やまもり(TEL:072-739-6046)

※最新情報は随時、
彩都やまもり HP
(<https://yamamori.site>) や
facebook でご確認ください。



やまもりHP



やまもりfacebook

彩都やまもり ひのきと日記

岐阜のひのきのお月見かざり

みなさま、中秋の名月は楽しめましたか？

恥ずかしながらわたしはじめて知ったのですが、お月見は十五夜・十三夜・十日夜と9月～11月に一回ずつあるそうです。十五夜しかお月見をしないと片見月といってなんと縁起が悪いとのこと・・・！



ということでまだまだお月見を楽しめるようにひのきでできたお月見かざりを作りました！大垣市の大橋量器さんの木柙と中津川市のひのき玉でできていてお月見が終わったあとにはひのき玉はひのき風呂に、木柙はお酒やお料理を入れて何度も楽しめる優れものです◎彩都やまもりにて販売しているのでぜひ見てみてください！



やまもり
yamamori

2021年10月発行

発行◎関西岐阜県人連合会
HP ◎<http://yamamori.site>

お問い合わせ◎ 関西岐阜県人連合会 事務局
TEL 072-739-6046 / FAX 072-726-2401
メール/代表 nakashima@kinoie.in

お祭りのない日常

コロナ禍2度目の秋。

今年も地区の祭りが、神事のみになりました。

獅子舞・奉納も、餅なげも、直会も

なし。子ども神輿も。

淋しい秋です。

祭りには、面倒なこともたくさん

ありますが、「近所さんと一緒に

あれやこれやして過ごすのって

わるくない。

そっやて地域を作ってたんだと

思うのです。

春祭りは、やれますように。



本間希代子 絵描き・イラストレーター 名古屋生まれ。加子母に移住して25年目。古楽器奏者の夫と娘と日々バタバタと加子母ライフを楽しんでいます。アトリエ玉手箱 <http://tebokko.jp>

●本間希代子展音楽と物語のある絵 10月31日(日)まで延長 熊谷権つけちギャラリーにて
【開館日】金・土・日祝日のみ【観覧料】一般330円 中学生以下無料【主催】中津川市 詳しくはHP



ひがしの
「東野」
植木 利英さん

前号より岐阜に暮らす人に焦点を合わせた企画としてこのコーナーを設けました。今回も前回に引き続き有限会社「東野」の植木利英さんにおはなしを伺っています。(やまもり通信編集室・以下「や」)

東日本大震災がきっかけで移住を決意し、いろいろ探したあげく岐阜県恵那市に安住の地をみつけた植木さんでしたが、住む家を手に入れたあと仕事を探すことになりました。



や■お仕事はどうやって見つけれられたのですか？
植木□落ち着いたところですがハローワークに行きました。もともと食品会社の営業をしていたのでそつう分野を探していましたら、たまたま地元は無農薬で有機栽培を手掛けている「東野」という食品会社が、営業職を募集しているのを見つけて応募しました。社長との面接の際、茨城県の家でもいろいろ家庭菜園をしていたこと、

無農薬や有機栽培農法に興味がある事などを話してすぐに採用となりました。

恵那市というところは恵那山のふもと木曽川の上流で水も空気も良く、農産物を育てるには自然に恵まれた素晴らしい土地です。ここに住み、働くことを決めてよかったと思っています。



や■将来の夢は？
植木□ 以前の茨城県での住まいでも野菜の他にニワトリを60羽ほど飼っていました。将来は、今住んでいる



飯地町のこの家の庭で放し飼いをし、本当に美味しくて健康にも良い鶏や卵を育てながら自給自足の生活をして暮らしたいと思っています。

ここ飯地町は「天空の里」とも呼ばれる里山で、人情も深くとても良いところです。近くに寄られたときはぜひ一度遊びに来てください。



※まめⅡ東濃地方の方言「元気」という意味

加子母の人 山守日記7 第65回 ある朝起きたら嫁と娘が失踪!?

おやまもり ないちのこしら
御山守内木彦七の『御山方御用并所持日記』を分かりやすく解説してくれているブックレット『山村の人・家・つきあいー江戸時代の、かしも生活』太田尚宏著。この本の中で私にとつて1番の衝撃だったのが、この「抜け参りの騒動」です。さて、抜け参り、って何でしょう？



●ある朝突然に
事件は、盆休みを終えた明和8年7月18日の朝起こりました。
彦七が起きたすと息子善右衛門の妻おいくがいません。娘おそよの嫁入り先の下屋あたりへ行つてらるうと奉公人を使いに走らせる、なんと！おそよも姿を消していました。さては抜け参りか。。彦七は、おいく、おそよが二人で示し合わせて伊勢神宮への抜け参りを敢行したのだとピンと来ました。



「抜け参り」とは、家族にも誰にも言わずに、いきなり姿をくらまして「お伊勢参り」に出かけてしまふ」ことをいうそつです。いきなりの失踪！現代なら一歩間違つ

たら警察沙汰になりそうですが、当時は抜け参り結構あったようです。しかも、伊勢に詣でることは善行と認識されていたので、抜け参りされてもなかなか非難できない風潮がありました。彦七も「やられた」と苦笑いするしかなかったようです。しかし、岐阜の山奥加子母からお伊勢さんまで行くって現在でも遠いです。車も鉄道もない時代、歩きと舟とたまには駕籠に乗るのかしら。。すごいなあ。

●うちだけじゃなかった！

さて、彦七や藤吉(おそよの夫)が村内の状況を探ってみると、神林の丈助、紺屋のおさん母子、佐平次弟上の田の丑之助、酒屋の為蔵、藤の木半平、井貝戸の娘、、、出るわ出るわ、大勢の人たちが抜け参りしていたことがわかりました。

この『大量抜け参り』をきっかけに、村に残った人達の間でも伊勢参りを希望する人が現れました。そうですよー！それなら私も行きたいわ！ってなりますよね。翌19日には更に数人の女性達がこそつて伊勢参りを強行！こうなると行きたい気持ち止めるのは難しく、続々と希望者が出てきました。

抜け参りフィーバーの風が吹くなか、さあ、どうする彦七、どうなる加子母村。

次号へ続く【文責 本間】

参考文献：『山村の人・家・つきあいー江戸時代の、かしも生活』太田尚宏著 徳川林政史研究所発行



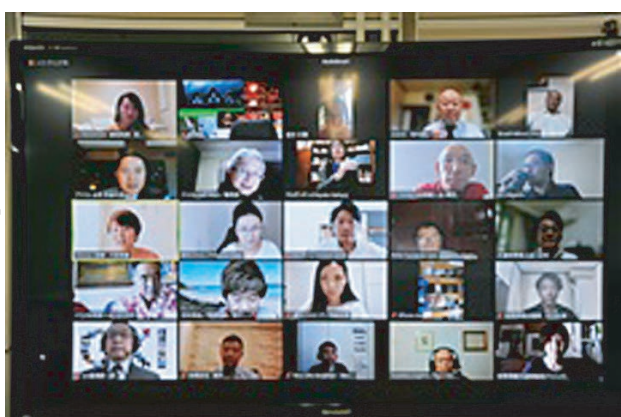
●岐阜県人会インターナショナル主催 第1回世界大会のお知らせ

今年5月に発足した世界15か国24の地域の岐阜県人会から成る、岐阜県人会インターナショナル(GKI)に、関西岐阜県人連合会も加入することになりました。

日本と海外双方の情報交換や交流を通して海外で頑張っている岐阜県人を日本の人たち(特に若い世代の人たち)にも知ってもらったり、世界進出を応援したりと、岐阜愛、というワードを軸に国境を超えた活動に取り組みうとしています。

その第一歩のイベントとして、来年秋に岐阜県で「第1回世界大会」が開催されます。

主な日程は以下のとおりですが、具体的な内容、詳細が分かり次第、またご案内したいと思います。



【写真提供・岐阜新聞社】

(予定)
2022年(令和4年)10月29日～11月2日
【内容】
10月29日 式典、演奏会、講演会、農業フェスティバルなど
10月30日 スピーチコンテスト、岐阜文化ワークショップ、懇親夕食会 など
10月31日～11月2日 岐阜をもっと知る体験交流ツアー

●訃報



神戸岐阜県人会の相談役で関西岐阜県人連合会の理事、飯尾敏治さんが8月6日、ご逝去されました。享年79歳でした。昨年脳梗塞で倒れられリハビリ治療中でした。

飯尾さんは県人会、連合会の活動に熱心でほとんどの事業に積極的に参加され、満面の笑みをたたえながら動きまわっていた姿が目に残ります。

謹んでお悔やみ申し上げます。